

令和2年度
事業報告書

社会福祉法人 みんなでいきる

1. 法人の現況

1-1 令和2年度総括

令和2年度はコロナウイルスの全国的な感染拡大や豪雪など予測を超える災害級の事案に見舞われた1年となりました。

コロナウイルスは施設運営においても大きな影響を及ぼし、ご家族の面会制限・職員の移動制限などを実施し水際での対策を実施しております。実態の解らない年度当初においては、ご利用者がサービスの利用を控えるなど収益面においても少なからず法人経営に影響を及ぼしました。また、マスクを始めとして衛生用品の品薄、値段の高騰などにより費用面においても例年に比して増額をしました。ご家族との面会が叶わない利用者については、精神的な影響により状態が悪くなるケースもあり新たな課題を突き付けられました。下期よりオンラインでの面会や感染対策を実施しての面会など各施設対応を実施しており状況は改善をされております。

また、1月の豪雪は市内において除雪が実施されない地域が続出し、車が動かないという状況が発生いたしました。通所施設を中心として道路状況の改善がみられるまでの1週間は閉所として対応いたしました。当然ながら収益にも大きな影響を与えた災害となりました。

上記のような状況の中、本年度の最大の目標である黒字化を達成することができました。要因としては、高齢施設を中心として人員不足が慢性化している中、IT機器の導入や仕事の見直しなどにより少ない人員においても利用者の受入れを継続できたことです。また、障害部門においても2ヵ年において立ち上げた新規施設の利用者確保も順調に進み、安定的な施設経営に入ったこともあげられます。

新規の事業としては、重層的支援を実施している「みんなでいきる相談センター」において上越市からの委託事業として生活困窮者支援事業がありました。今日、食べるものが無い住むところが無い人や、就労をしたがうまく継続できず生活に困っている方などをサポートする事業となります。本年度はコロナ禍により収入が途絶えた方などの支援も実施し初年度としては手探りの状況ではある中十分な実績を残せました。

最後に、令和4年度より正式に運営が開始する「つちはし保育園」の準備1年目となりました。保護者との協議が主な一年でしたが、現在の保育方針の大きな変更をしないこと、当法人のノウハウである障害児対応を強化した保育や家庭支援も行う保育園として365日24時間の子ども笑顔を支える保育しますということを説明しご理解を得ました。令和3年度の共同保育にての引継ぎを経て、当法人が目指す“みんなでいきる”を具現化する事業として進めてまいります。

2. 令和2年度事業方針の取組について

2-1 「部門別予算」の達成

(単位：千円)

拠点名	事業収入		達成率	事業損益		達成率
	当初予算	決算額		当初予算	決算額	
サンクス米山	561,096	550,744	98.1%	7,073	10,773	152.3%
サンクス柿崎	204,400	195,263	95.5%	551	8,137	-
サンクスレルヒの森	491,705	509,861	103.6%	50,971	40,510	79.4%
りとるらいふ	302,985	305,725	100.9%	7,373	8,793	119.2%
若竹寮	215,260	215,572	100.1%	17,385	5,079	29.2%
相談センター	74,777	77,029	103.0%	3,864	5,811	150.3%

2-2 新規事業の立ち上げ

(1) 生活困窮者支援事業の受託

生活困窮者を支える事業としてみんなでいきる相談センターが下記事業を受託

就労準備支援事業

(就労に向けた準備が整っていない人に対し、一般就労にむけた準備としての基礎能力の形成を計画的かつ一貫して実施)

実績：13名の相談者に対し7名の支援を実施。7件の就労準備支援プログラムを作成し、延353件の支援を実施した。その他勉強会、職場見学、就労体験等の支援を実施

家計改善支援事業

(家計に課題を抱える人に対し家計の視点から必要な情報提供や専門的な助言・指導等を行うことにより、自ら家計を管理する力を高め、家計の再生を支援する)

実績：23名の相談者に対し5名の支援を決定し、延602件の支援を実施

一時生活支援事業

(住居を持たない生活困窮者に対し、一定の期間内に限り、宿泊場所の供与、食事の提供及び衣類その他日常生活を営むのに必要となる物資の貸与又は提供により、安定した生活を営めるよう支援)

実績：16名の相談者に対し、9名の支援を決定した。

(2) つちはし保育園の運営開始に伴う準備

令和4年度より民営化される上越市立保育園である「つちはし保育園」の運営移管事業者として採択をされました。今年度は、正式な運営開始に伴う準備として関係者調整会議を実施した。令和3年度については9名の職員を出向させ共同保育として引継ぎを実施します。

上越市立保育園の民間移管に伴う関係者調整会議

出席者：保護者代表、上越市保育課、当法人

開催日：第1回（4月28日） 第2回（7月30日）

第3回（12月21日） 第4回（2月12日）

2-3 障害者芸術活動の推進

(1) 日本博を契機とした障害者の文化芸術フェスティバル in 東海・北陸ブロック

コロナ禍により開催方法の変更を行い実施

開催期間：令和2年11月28日～12月13日

開催概要 ミュゼ雪小町にて展覧会を実施するとともに、世界最古級の映画館である高田世界館にて、舞台芸術・バリアフリー演劇・バリアフリー映画を事前収録映像によるフィルムコンサート形式で実施。新たな作り手、支え手と出会う試みとして新潟県内において初めて公募という方法での展覧会を企画。

アール・ブリュット - 日本人と自然展

2020年2月に行ったグランドオープニングに出展した全国巡回作家とブロック選出作家による計20名による展覧会をミュゼ雪小町にて実施。加えて、作家の制作の様子や制作の背景に関する関連動画を会場で上映。

会場入場者数：1,389人

関連動画再生回数：341回

舞台芸術公演の発信およびバリアフリー映画の上映

東海・北陸ブロックを拠点に活躍する4団体による映像出演およびグランドオープニングで上演した瑞宝太鼓、石見神楽の映像公演を実施。また、バリアフリー映画やバリアフリー演劇の上映。

(2) 厚生労働省「障害者芸術活動活動普及支援事業」の受託及び運営

東海・北陸ブロック障害者芸術文化活動広域支援センター支援

愛知、静岡、三重、岐阜、富山、石川、福井、新潟県の東海・北陸ブロック内における普及支援事業

主な活動内容

人材育成研修事業

ブロック研修会（7回）

ブロック実践報告会

ブロックフォーラムの開催

「三重県アールブリュット&ミュージックブリュット ~自由から世界が始まる ART2020~」

アクセシビリティ研修

○発表会の機会の確保

展示会を各県の支援センターや関係団体の手上げ方式で、作品を巡回する形で3県4会場にて実施。

権利関係研修事業

(3) 新潟県障害者芸術文化活動普及支援事業の受託

実行委員会形式での参加型作品展示会（もちより展）開催の支援

YouTube での作者の作品にまつわる動画の制作配信開始

(4) フクシとアートとデザインを融合させたグッズの展示・販売

高田ロータリークラブの主催によりグッズの企画制作を実施。

作家数：10名（応募数36名）

売上額については経費を差し引きフードバンクじょうえつへ全額寄付。

今後の動きとして、表現活動の場兼グッズの販売場として「ふいふいのお店」を令和3年4月にOPEN。

2-4 高齢福祉事業及び障害・児童福祉事業の更なる融合

【事業部間職員異動実績】

平成28年度異動者 4人

平成29年度異動者 19人

平成30年度異動者 13人

令和1年度異動者 2人

令和2年度異動者 9人

異 動 前	異 動 後	人数	摘 要
若竹寮	本 部	1 人	定期人事異動
りとるらいふ	若竹寮	1 人	〃
サンクス柿崎	若竹寮	1 人	〃
若竹寮	つちはし保育園	1 人	〃
サンクス米山	つちはし保育園	1 人	〃
サンクス米山	相談センター	1 人	
若竹寮	サンクス米山	1 人	
サンクスレルヒの森	相談センター	1 人	
相談センター	サンクス米山	1 人	

2-5 「働きがいのある職場への実現」への取り組みを実施

(1) 人員確保対策による職員負担軽減

外国人技能実習生の受入れを実施。

公益社団法人日本会を管理団体としてベトナムより技能実習生の受入れを実施。1月14日に日本に入国し、その後1か月茨城県にて受入れ研修後2月16日に上越へ着任しサンクス米山へ配属され、現在勤務継続中。

今後も人材不足は継続すると思われるため、日本語力を加味し留学生の受入れを検討実施する。

(2) 職員の継続雇用の推進

健康管理アプリ「LEBER」の導入

職員が体調管理のセルフコントロールができるような仕組みとして導入。「健康相談」「体温(体調)管理」「毎月のストレスチェック」を実施し、自分の体調が現在どの程度かを把握することにより、更なる体調悪化を防ぎ職務に支障をきたさないこと及び管理者が適時把握することによる、職員の状態悪化を未然に防ぐ目的。

パート職員への処遇改善手当の支給

パート職員も法人においての貴重な戦力であり、同一労働同一賃金の考え方に基づくこと及び仕事の内容を考慮し、正職員にのみ支給していた処遇改善手当をパート職員まで拡大支給する。1時間当たりの時給に50円を加算して支給。

2-6 優秀な人材確保及び離職防止に向けた採用研修への取り組み。

令和3年度入職新卒職員採用者数

最終学歴	採用数	配属部署	
大学卒	7人	高齢福祉事業部	4人
短大専門卒	2人	障害福祉事業部	3人
高卒	1人	児童福祉事業部	3人
計	10人		

上記採用者数の内訳(重複あり)

県外大・短大卒数(2人) 上越市外出身者数(7人)

福祉系大卒(7人) 福祉系短大専門卒(2人)

新卒入職職員へのフォローアップ研修の実施

目的：1年目の目標の明確化及びフォロー実施することによる離職防止

日程：4回開催(5,7,10,3月)

中堅職員研修の実施 一部コロナウイルス感染症予防の為開催を延期

目的：3年までの職員離職を防ぐこと及び、リーダー候補を計画的に養成する。

2年目職員フォローアップ研修(6,12月)

2・3年目対象モチベーションアップ研修(10,11月)

4・5年目対象主任見習い研修(1,2月)

主任管理職研修(10月)

3. 法人の概要

3-1 事業所の概要

事業部	事業所名	サービス名	定員	管理者	開設年月	
高齢福祉 事業部 「サンクス」	介護老人保健施設 サンクス米山	介護老人保健施設	100名	原田 雷太郎	H15.9	
		通所リハビリテーション 訪問リハビリテーション	30名			
	サンクス柿崎	短期入所生活介護 通所介護	40名 20名	白砂 弘継	H25.4	
	特別養護老人ホーム サンクスレルヒの森	指介護老人福祉施設	100名	塚田 光知子	H27.6	
障害福祉 事業部 「りとるらいふ」	りとるの家	生活介護「きら」	20名	久保 久美子	H22.4	
	りとるの家はなれ	放課後等デイサービス「ららん」	10名	久保 久美子	H24.5	
		短期入所「ぶあん」	8名	片田 竜一		
	とも	生活介護「とも」	20名	久保 久美子	H30.4	
	にこ	放課後等デイサービス「にこ」	10名	渡辺 功	H27.6	
	ぱれっと		放課後等デイサービス「もーと」	10名	片桐 友紀	H31.4
			グループホーム「ふぁみりあ」	12名	片田 竜一	H31.4
生活サポートホーム「ぱれっと」			6名	片田 竜一	H31.4	
しゃぼん玉クラブ	高田西小学校放課後児童クラブ	75名	片桐 友紀			
児童福祉 事業部	児童養護施設 若竹寮	児童養護施設	56名	丸田 明久	H29.4	
地域生活 支援部	みんなでいきる 相談センター	地域包括支援センター 居宅介護支援 特定計画相談支援 障害児相談支援 上越市生活困窮者支援事業 上越市子どもほっとライン事業		江部 健幸	H30.4	

3-2 施設職員数の推移 正 正職員 他 契約職員・パート・アルバイト

年 度 拠 点 名		平成 30 年度末	令和 1 年度末	令和 2 年度末	増 減
サンクス米山	正	75 人	72 人	73 人	+ 1 人
	他	20 人	23 人	28 人	+ 5 人
	計	95 人	95 人	101 人	+ 6 人
サンクス柿崎	正	29 人	27 人	25 人	2 人
	他	13 人	16 人	16 人	0 人
	計	42 人	43 人	41 人	2 人
サンクスレルヒの森	正	59 人	57 人	59 人	+ 2 人
	他	20 人	26 人	27 人	+ 1 人
	計	79 人	83 人	86 人	+ 3 人
りとるらいふ	正	34 人	40 人	44 人	+ 4 人
	他	22 人	24 人	26 人	+ 2 人
	計	56 人	64 人	70 人	+ 6 人
若竹寮	正	29 人	33 人	34 人	+ 1 人
	他	9 人	6 人	5 人	1 人
	計	38 人	39 人	39 人	+ 0 人
相談センター	正	11 人	11 人	15 人	+ 4 人
	他	0 人	0 人	0 人	0 人
	計	11 人	11 人	15 人	+ 4 人
法人本部	正	9 人	9 人	9 人	0 人
	他	0 人	0 人	1 人	+ 1 人
		9 人	9 人	10 人	+ 1 人
総 計		330 人	344 人	362 人	+ 18 人

3-3 財産債務及び損益の状況の推移

(1) 財産債務の推移

(単位：千円)

事業年度 項目	平成 30 年度 H31.3.31 現在	令和 1 年度 R2.3.31 現在	令和 2 年度 R3.3.31 現在	増 減
流動資産	632,080	472,524	503,427	30,903
固定資産	2,940,466	2,852,100	2,726,765	125,335
基本財産	2,341,521	2,515,964	2,414,965	100,998
その他の固定資産	598,945	336,135	311,799	24,336
資産の部 計	3,572,547	3,324,624	3,230,192	94,432
流動負債	627,594	315,168	340,156	24,987
固定負債	1,923,558	2,066,928	1,974,799	92,128
負債の部 計	2,551,153	2,382,097	2,314,956	67,140
純資産の部 計	1,021,394	942,527	915,235	27,291

(2) 損益の推移

事業年度 項目	平成 30 年度	令和 1 年度	令和 2 年度	増 減
サービス活動収益	1,704,230	1,746,224	1,884,823	138,599
人件費	1,098,861	1,130,837	1,211,647	80,810
事業費	230,949	234,615	252,645	18,030
事務費	265,636	286,570	281,979	4,591
減価償却費	103,157	116,981	117,322	341
その他	9,573	9,733	8,998	735
サービス活動費用	1,708,178	1,778,736	1,872,591	93,855
サービス活動増減差額	-3,947	-32,512	12,231	44,743
サービス活動外収益	5,717	6,269	7,627	1,358
サービス活動外費用	16,851	16,746	17,293	547
経常活動増減差額	-15,081	42,989	2,565	45,554

3-4 会議の開催状況

(1) 理事会（定数7人）

回数	開催年月日	出席 理事数
第1回	令和2年5月29日	書面表決
第2回	令和2年7月6日	6名
第3回	令和2年11月30日	7名
第4回	令和3年3月29日	7名
第5回		

(2) 評議員会（定数8人）

回数	開催年月日	出席 評議員数
第1回	令和2年6月15日	書面表決

3-5 監査の状況

(1) 法人監事による監査

実施日時：令和2年5月15日

場 所：法人本部

監査項目：会議開催状況、決算、資産・負債残高照合

監査所見：特になし